

# 第4期大村湾環境保全・活性化行動計画

～ みらいにつなぐ “宝の海” 大村湾 ～



平成31年3月

長崎県

# 第4期大村湾環境保全・活性化行動計画 目次

## はじめに

### 第1章 第3期大村湾環境保全・活性化行動計画の検証と評価

---

- 1 第3期大村湾環境保全・活性化行動計画の概要 . . . . . 1
- 2 第3期行動計画の実績 . . . . . 2
- 3 第3期行動計画の目標達成状況 . . . . . 3

### 第2章 第4期大村湾環境保全・活性化行動計画の策定に向けて

---

- 1 大村湾の現状と課題 . . . . . 6
- 2 第4期行動計画の策定の趣旨 . . . . . 15

### 第3章 第4期大村湾環境保全・活性化行動計画の基本的事項

---

- 1 第4期行動計画の目標 . . . . . 18
- 2 第4期行動計画の方向性 . . . . . 18
- 3 第4期行動計画の体系と施策体系 . . . . . 19
- 4 第4期行動計画の指標 . . . . . 22
- 5 第4期行動計画の期間 . . . . . 22

### 第4章 施策の内容

---

- 1 森里川海が一体となった里海づくり . . . . . 23
  - (1) 流入負荷抑制対策 . . . . . 23
  - (2) 生物多様性の保全 . . . . . 25
  - (3) 里地里山の管理 . . . . . 26
  - (4) 水産資源の持続的な利用 . . . . . 28
  - (5) 海域環境の保全 . . . . . 29

2	みんなで取り組む賑わいのある里海づくり	30
(1)	親水意識醸成への取組	30
(2)	環境への配慮	31
(3)	地域資源の活用促進	32
(4)	流域連携・協働取組の推進	33
3	第4期行動計画指標一覧	35

**第5章 第4期大村湾環境保全・活性化行動計画の進捗管理** . . . . . 36

---

**付属資料**

---

資料1	大村湾の概況	37
資料2	用語の解説	47

# はじめに

大村湾は、本県本土の中央部に位置し、佐世保湾を介して、針尾瀬戸と早岐瀬戸の2本の水路でのみ外海と通じている、非常に閉鎖性が強い湾です。さらに、昔は盆地だったことから、一度河川等から入ってきた水は、外海へ出ていきにくい特性をもっています。

近年では、これまでに流入した栄養塩の蓄積に起因すると思われる底質悪化や、貧酸素水塊の発生及び浅場の減少等による海洋生物の生息環境の悪化等の課題があり、その対策が求められています。

このような中、本県では、大村湾の環境保全及び流域の活性化等を主眼とした「大村湾環境保全・活性化行動計画」を平成15年度に、第2期行動計画を平成20年度に、それを継承する形で第3期行動計画を平成25年度に策定し、関係市町や多くの住民の皆様などのご協力・ご参加により、施策を実行して参りました。

これまでの取組の成果もあり、大村湾全体の水質は改善傾向にありますが、湾奥部の水質は依然として環境基準を達成しておらず、貧酸素水塊等も毎年発生している状況にあります。

長い年月にわたって変化してきた海を、短期間で劇的に回復させることはできませんが、引き続き生物の力を活用した自律的な環境修復能力を高める取組を第4期行動計画においても推進し、生態系の安定した海を目指します。

また、大村湾だけでなくその流域を含めた広範囲の環境、森・里・川・海が一体となっている、その仕組みを流域に暮らす人々に意識していただく必要があります。

一方、国の第五次環境基本計画には、自然的なつながり（森・里・川・海の連関）や経済的つながり（人、資金等）を構築していくことで、農山漁村も都市も活かす、我が国の地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方が取り入れられています。

大村湾のことを考える人を増やし、一人ひとりが大村湾と関わり、考え、大村湾を地域資源として最大限に活かすことで、将来にわたって海の恵みを受けられるよう行動することが、現在を生きる私たちの責務だと考えています。

「第4期大村湾環境保全・活性化行動計画」では自律的な再生能力をもち、持続的な活用ができる里海をめざし、「宝の海」としてみらいへつなげるよう、各種施策に取り組んで参ります。